

災害対策山静神連絡会議「富士山火山防災対策シンポジウム」実施結果概要

1 趣 旨

富士山は、781年以降、これまで10回の噴火記録があり、ひとたび噴火した場合、その被害は甚大でありかつ山梨県、静岡県、神奈川県を中心とした広範囲にわたることから、三県が連携して防災対策に取り組んでいく必要がある。

特に、今般は、国による「噴火警戒レベル」の導入や「噴火時等の避難に係る防災体制の指針」の策定等の施策の推進がなされ、より具体的な火山防災対策の推進と連携強化が求められているところである。

そこで、直近の宝永噴火（1707年）から300年が経過したこの期に、山梨県、静岡県、神奈川県の三県は、災害対策山静神連絡会議としてシンポジウムを開催し、噴火被害に関する県民及び行政職員等の理解促進、意識向上を図るとともに、三県の連携体制強化に資することとし、これをもって三県における富士山噴火に備えた対応力強化を図ることとした。

2 日 程

平成21年2月1日（日）13時30分～16時30分

3 会 場

小田原高等学校 視聴覚教室（小田原市城山3-26-1）

4 主催等

主催：神奈川県、山梨県、静岡県

共催：国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所、横浜地方气象台、小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、足柄消防組合消防本部、静岡大学防災総合センター

5 参加人者等

約270名（参加対象は、主催及び共催機関職員、市町村及び関係機関職員、一般県民）

6 内容

（1）基調講演

ア 「富士山の噴火史と火山防災対策」

静岡大学教授 小山真人氏

（内容）富士山のおいたち、主な火山活動、噴火によって生じる溶岩流や降灰などの現象、火山防災マップに基づく防災対策、富士山との共生などの講演

イ 「富士山宝永噴火と土砂災害」

（財）砂防フロンティア整備推進機構参与・技師長 井上公夫氏

（内容）宝永噴火による火山灰の分布と各地の被害、酒匂川や足柄平野などにおける土砂災害被害などの講演

(2) パネルディスカッション

テーマ「富士山噴火への必要な備え」

コーディネーター (特非)東京いのちのポータルサイト監事 中橋徹也氏

コメンテーター 小山真人氏、井上公夫氏

パネリスト 足柄の歴史再発見クラブ前会長 大脇良夫氏

山梨県環境科学研究所研究部長 輿水達司氏

静岡県防災局防災報道監兼防災情報室長 岩田孝仁氏

神奈川県温泉地学研究所企画調整担当部長 杉原英和氏

(内容) 山梨、静岡、神奈川の各県において想定される被害の違いと防災対策を確認し、三県における連携した取り組みを検討し、また、住民として必要な備え、有益な地域活動などについての意見交換

(3) 関係する資料展示等

ア 展示

- ・宝永噴火洪水堆積物ハギトリ標本(開成町瀬戸屋敷所蔵)の展示
- ・富士山(主に宝永噴火)に関連した絵図、パネル、写真等の展示
- ・過去の富士山の噴火等を再現したCG映像の放映

イ 体験

- ・3D体験シアター「自然災害体験車」による土石流・火砕流の体験
(国土交通省関東地方整備局による)



基調講演

静岡大学 小山 真人氏



基調講演

(財)砂防フロンティア整備推進機構 井上 公夫氏



パネルディスカッション

テーマ「富士山噴火への必要な備え」



3D体験シアター(国土交通省関東地方整備局)

「自然災害体験車」による土石流・火砕流の体験



展示コーナー

